

令和4年度第2回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和4年9月20日（火）
◎開催日時 令和4年9月20日（火） 午後1時30分～3時
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、宮下学校教育課長、北林生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小島社会教育指導員、福興指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

馬場教育次長

定刻となりましたのでただいまから今年度第2回目の総合教育会を開催してまいります。始めに白鳥市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

今年度2回目の総合教育会議ということで、テーマを絞ってお願いします。

移住定住もずいぶん増えてきており、中でも教育による移住者が多い状況にあります。特に伊那小学校、伊那西小学校、高遠北小学校で、そして傾向があり、その理由については、後ほどお話をさせていただきます。

また、先日フィンランドから3人の方がお見えになって、伊那西小学校のすぐ下にありますフォレストコーポレーションをお借りして座談会を行いました。教育関係者を中心に100名ほどお集まりいただきました。フィンランドの教育の進め方、やり方をテーマとしてお話をいただきました。

伊那小学校についても総合学習ということで、たくさんの皆さんがお見えになっています。その対応、広報、案内も大変という中で、最新技術を使ったMRスクエアというバーチャルで世界のどこからでも見学できるものも作っています。こうした事例、その他にも老松場古墳群や学校登山など様々なテーマを用意しています。よろしくお願いいたします。

馬場教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

笠原教育長

本年度第2回目の総合教育会議となります。この会議でございますが、市長が子どもたちの日々の学びや生活、また市民の皆さんの学びについて共に考えてくださる私どもにとっては大変ありがたい機会であると思っていますところ です。

先月29日に長野県と市町村の間での総合教育懇談会がオンラインでありました。私も参加する中で伊那市の教育資源をフル活用した小規模特認校の事について発言をさせていただきました。

また、市長の話の中にもありましたが、先週末、フィンランドのバイウエルさんの講演会をお聞きしました。非常にタイミングよくありました。

本日は子どもの育ちを真ん中に置いた教育について考える機会として大事なと思うところで。内容が盛りだくさんですけれども、よろしくお願いいたします。

馬場教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。
ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 自己肯定感を高めるフィンランド教育について (白鳥市長)

白鳥市長

最初に自己肯定感を高めるフィンランド教育についてお願いします。

そもそもなぜフィンランドの方が伊那市に見えて、教育などについて話を参加者に話をしたかということですが、今から3年前、2019年の10月下旬に、長野県の仲介で、フィンランドの北カルヤラ県と伊那市が森林・林業技術に関わる覚書を締結したところです。

その時に森林に係わる様々な企業、国の取り組み、あるいは現場に行って、1週間みっちり朝から夜まで勉強したのですが、その中でラップランド大学附属小学校の視察をすることができました。

私はフィンランドの教育は非常に進んでいる、世界で最も進んだ教育をしている国という認識はあったのですが、その中身までは知りませんでした。ラップランド大学附属小学校に行った時に、これは小中一貫校ですが、非常に理に適った教育をしているということ、また、日本の詰め込み式の教育とはまったく違う方法だということ、特に教師のレベルが非常に高く、教師は弁護士と同等ぐらいの社会的地位を持っていることを学びました。教師は時間内で授業を行い、時間外はもうフリーということできちんとしています。

半日ほど、校長先生から案内してもらいました。そこでは、それこそ高遠の進徳館、実学とされているものと同じことをやっていると思いました。むしろ、それが先進的なものとして教育の中で展開されているということを感じたところです。

フィンランドの学校は全て同じということですが、まず子どもの基礎教育、それから教員の養成、こうしたものが柱になっていて、小さい頃から森と関わるのが基本のようです。小学校1年生になると自分たちで森に行き、食べられるもの、食べられないものを学び、森そのものが尊敬にあたる場所であること、森によって生かされていることを学べます。5年生になると、フィンランドは森と湖の国ですのでカヌーを自分たち漕いで約1週間の旅に出ます。自分達でテントを張って、火を焚いたり、食事を作ったりする。当たり前のことですが、そうしたことが学校教育の中で行っている。

また、フィンランドは資源が豊富にある国ではないのですが、森林が資源ということで、その森林からいろいろな新しい素材を探し出したり作ったりということができている国です。例えばキシリトールは白樺から取ったものであったり、他には針葉樹を中心にプラスチックの素材と同じものがあって、バイオフェノールを抽出して、それからプラスチックに代わるものを作ったり、また森林資源をデータ化するなど全てが進んでいます。これは、小学校の小さい頃から、そうしたことを教えていることによって、産業として自分たちの進むべきものとしている、そのように思いました。

授業内容は、科目別ではなくてテーマ別の教育を行っています。伊那小も同じかもしれません。応用力など具体的に役に立つように教えているということで、大体 20 人から 30 人の生徒に 1 人の教師と 2 人の教員の卵の 3 人が担当します。教員の卵は、ベテランの先生を見ながらいろいろなことを覚えていく。学校には看護師や心理学の先生もいる。驚いたのは、例えば一つの教室で勉強していて、算数で分数が出たとすると、そこでつかえる子がいて、なかなか理解できていない。そうすると、そういう子どもたちを別の教室で徹底的に理解できるまで勉強して、それから元の教室へ戻ってくる。授業の中でつかえているなと思うと、別なところで理解するまでで勉強してまた戻る。その繰り返しです。ですから、1つのことがわからなくても、そこでわからないまま、次のステップに行くということがない。みんな理解した上で次へ行く。ですから、エネルギーは使うのですが、子ども達はわからないまま大人になっていくことはなくて、きちんと理解をしながら進んでいる。こうしたことがしっかりされていると思いました。

カリキュラムは、文化や、評価システム、学習システムそれに加えて、能力や地域、価値観、意欲がありますのでオールラウンドです。

4 年生のクラスに行ったときには、例えば刃渡り 30 センチから 40 センチぐらいの先が尖った包丁が教室に何本もぶら下げてあり、これは家庭科で料理をするときに使うもので、それを子どもたちが出して料理をしています。別のクラスでは木の椅子を作っており、木を切ったり、削ったりしながら椅子を組み立てています。そのデザインも、色を塗ったり、絵をかいたり、椅子という機能だけではなくて、そのデザインも含めて作っている授業もありました。これには専門の先生がついて、子どもたちの自主性とひらめきを上手に引き出しながら作っています。みんな個性があって、曲がったものもあれば、比較的まともな椅子もあり、とても発想的な絵があるものもある。

さらには環境学習も徹底していて、教室の中には分別用のゴミ箱がいくつもあって、燃えるごみなども細かく分けて、それを子どもたちも普通にやるっている。

校長先生に話を伺うと、熱心に話してくれました。今まで視察に来て、さっと見て帰ることが多いが、あなたたちは本当によく見てくれている。あなたの地区から先生が研修したいという希望があれば受け入れます。あるいは、こっちから研修派遣をしてくれということであれば派遣します。実際に、視察に来た皆さんにこの話をしても、研修に来たという試しがないということでした。

伊那の教育は、総合学習もそうですが、進徳館の実学もそうであり、フィンランドの教育は非常に高い親和性のある雰囲気を感じました。そうしたところをもう 1 回、フィンランドで学べるころはあると思っているところです。

先日、フィンランドの教育に関する講演会をお願いしました。これからも、こうした取組を進めていきたいと思っているところです。

また、ICT も非常に進んでいました。多言語の学習も当然やっているのですが、英語の他にもいろいろな言語をやっていて、非常に国際的であるし、小さいころからやっているということです。

フィンランドの国としての考え「国家は教育」である、これは 1927 年ですから今から 100 年前に始まり、今でも続けている。フィンランドにはいろいろな企業があり、起業家が多いと言われていて、トラクターの会社やサイエンスパークなどすごい企業がある。

考察として、詰込式ではなく、必要なものを学ぶ場として学校がある。子どもたちの進路はそれぞれ違いますので、最初はそれぞれそれを見ながらサポートして、学び直しをしながら成長を支援する。伊那市からも要望あれば教師の受け入れが可能であるようです。フィンランドの現場、教育現場、それから様々な場所で学ぶべきところがある場所です。必要であれば、教師の派遣なり、あるいはこちらから行くなり、そんなことも今後考えていくことができるかなと思っています。

す。

先生たちの社会的地位の高さには驚くものがあります。保護者は先生に任せて、文句や悪口を言わない。

先日の座談会の中に参加した教育関係者もいる中で、感じたことがあれば話をしてもらえればと思います。

笠原教育長

話をしてくださったのはカトゥーヤ・ゴアブルーメさん、教育研修施設で指導等を担当されている方です。20 年以上、いろいろな場所で指導者を育てる立場で教育に関わったのではないかなと思います。

お話はフィンランド語。それからスクリーンに出てくる資料は英語。通訳は日本語とか言っておられました。

通訳の方を通し、少しずつ間をおきながらですが、内容は自分たちが取組んでいること、育んでいることに自信をもって、非常にクリアにお話をされたのが印象的でした。

いろいろな資料の中で、私が印象的だったのは森の写真があり、そこには子どもが写っているのですが、子どもが1人で写っている写真がほとんどなく、いつも誰かと写っている感じでした。それはご高齢の方であったり、子どもたち同士であったりでした。森との関わりの中で、フィンランドの教育はどういうことを願いながら営まれているのか。森との関わり、その中で人との関わりを持ち、自分がどのようにして生活をつくっていかうとするのかということ、また、アクチュール、態度とか、あり様とか、そういうような意味だと思いますが、それを生きていく力にしながら、自分の生き方をつくっていくことを大事にし、誰かとの繋がりの中で子どもたちを育てる、そういうことも大事にしている、そんなことを感じながら見せていただきました。

白鳥市長

何かご質問あれば、できる範囲でお答えしたいと思います。今後、フィンランド行ったり来たりする機会もありますので、その折に、お伝えできると思います。何か感じたところなど、ありましたらお願いします。

黒河内委員

フィンランドにとって今一番重要なのは、隣にロシアがいて、ウクライナが攻め入れられていて、非常に危ないということでNATOに加盟申請するなどの状況にあります。その中で5年生がカヌーで何キロも移動したり、テントを張って食事をとったりするようなこともしている。単に森が好きだから森に行っているだけではなく、昔からフィンランドはロシアに併合されたりする中で1917年によくロシア革命で独立し、それから4年後にこの教育ができて「国家は教育である」としている。軍事力ではかなわないけれども「教育でやっていかなければならない」というところは明治の日本と似ていて、共通することだと思います。昔の日本と今のフィンランドは似ているのかなと思いました。

白鳥市長

フィンランドはとても親日的です。理由を聞いたら、極東の小国がロシアに勝った、バルチック艦隊に勝ったおかげでフィンランドへの攻撃が止まった、だから日本が好きということでした。そんなところまで関係しているのかと思いました。

いろいろな皆さんに会ってみて、やっぱり日本のことをよく知っており、好きだと言ってくれる。逆に私たちはフィンランドをどこまで知っているかというと、ムーミンやサンタクロース、

森の国というところであり、その先はほとんど知らないと思います。

フィンランドでは、エネルギーは森からもらって作っています。木を使ってボイラーを回して、それを 20 戸から 30 戸の家で使っている。2020 年には代替品のあるプラスチックの使用を禁止にしてい、コップや器など「木」や「ガラス」など代替を使うこととしており、プラスチックで作ることは禁止されています。2025 年までには石炭の使用禁止、2035 年には石炭も石油も化石燃料も使うということは一切禁止とする方向で動いています。非常に環境について、きちんとした信念を持っています。

田畑委員

伊那市の子どもの中には、大学生で留学している子も何人かいます。親日ということもあって、意外と日本語は若い世代もやっていると思います。折しも、伊那谷自体が高校再編はじめいろんなことで教育新しい形を模索している中で、もしできるなら、この Zoom の世の中になったので、現地の教育の仕組みを学ぶことも可能だと思います。フィンランド語を英語に訳して英語から日本語に訳すことも必要になると考えると手間であり、言語的に生で会話も難しいので、現地の日本人や通訳がいるとしたら、Zoom で参加してもらえれば、距離も時間も関係なく、本当に具体的に直接的な話を聞くことができる。これも市長が直接行っているからこその繋がりがある中で、いろいろ人の学べる窓口なると思いました。

白鳥市長

3 年前に行って以降、コロナ禍でしたけれども、Zoom もやっています。

また、今年の 6 月に向こうの知事と副知事が訪問されました。今年の 10 月には実務レベルの皆様が向こうに行って、森林関係の専門家と、商業ベースの打ち合わせをします。それがどんどん広がると、今までと違う繋がりができてくると思います。

北原職務代理者

大変魅力的に感じました。学校の 3 つの柱「子どもの基礎教育」「教師の養成」「教育に関する研究開発」がベースになって、理に適った教育ということでした。

私達が足りないことは、子どもの基礎教育について十分としても、学校でも、また学校を超えた教育の機会でも、教師の養成についても、ここまでは出来ていないかもしれませんが、取り組んでいる状況があります。

一方、「教育に関する研究」は、弱いかなと思いました。新しい学習指導要領でもカリキュラムマネジメントと言われていますが、そのことを本当に意識して取り組んでいるかという、やっぱりどこかにあるものを持っているような感じで、自分たちが研究していくということが、非常に難しいかなと思います。

それは、こういうところをベースにしていかないと、本当に納得のいく教育にたどり着かないかなと感じました。素晴らしい内容でした。

白鳥市長

ありがとうございました。次の項目もありますのでここまでとします。

(2) 伊那小学校及び小規模特認校の状況について

白鳥市長

次に伊那小学校及び小規模特認校の状況について、説明をお願いいたします。

宮下学校教育課長

教育移住の状況について資料を説明

地域創造課 浦野副主幹

伊那MRスクエアを紹介しながら説明

白鳥市長

伊那小学校以外の紹介もありますか。

地域創造課 浦野副主幹

小学校はホームページや小規模特認校の特徴というところで、テキストベースで紹介しています。360度での紹介は今後もやっていくことが可能です。予算との兼ね合いもありますので、そういう中で考えていきます。

伊那西小学校 高橋教頭

伊那西小学校の取組について資料に基づき説明

白鳥市長

いくつか説明がありました。質問がある方はお願いします。

北原職務代理者

MRスクエアは私も見せていただいていて、簡単に入ることができていいと思うのですが、ただいま発表いただいた中で、例えば高遠北小学校の芸術など、トータル的にそういう部分があるということも取り上げていただければ良いと思いました。

もう一つ、本当に高橋先生素晴らしい発表してくださったのですが、学校を訪れる皆さんのために校長先生も素晴らしい紹介のビデオ作ってあります。それを各学校で共有いただく中で「自分たちの学校が素晴らしいんだ」ということを感じる発表を共有いただければと思いました。

原田委員

本当に先生の発表見せていただいて、先生達はこんなに熱く、また語ることもあるのだなと思いました。本当ありがとうございました。

白鳥市長

他にはどうでしょうか。よろしいでしょうか。では、次の報告事項に入ります。

(3) 報告事項

○老松場古墳群について

白鳥市長

最初に老松場古墳群についてお願いします。

生涯学習課 濱学芸員
老松場古墳群について説明

白鳥市長
文化財の登録に向けて動きはありますか。

北林生涯学習課長
現在の概要報告がまとまりましたので、伊那市指定の文化財に向けて、文化財審議委員会の方へ図っていきたいと思います。

北原職務代理者
未盗掘ということですが、野にさらされている状態で、これを守っていくお考えはありますか。

北林生涯学習課長
当初に計画した調査のが終了しましたので、市として学術調査は予定しておりません。埋蔵文化財については、これまでもそのままの形で後世に残す方針で、調査をしてきませんでした。今回もその一つということになります。ただ関西大学等で勉強に使いたいということであれば、協力していきたいと考えています。
未盗掘ということで、鎖を付けて入らないようにするというのもできませんので、今のところ対策は考えておりません。学校の学習等で活用する場合など、何らかの整理が地元の方をお願いできればいいのかなと考えています。

白鳥市長
はい。ありがとうございました。

○市誌編さんの状況について

白鳥市長
続きまして、市誌編さんの状況について説明をお願いします。

市誌編さん室長
資料に基づき説明

白鳥市長
現時点で、課題はありますか。

市誌編さん室長
予算的な問題、人力的な問題などがありますが、一番の課題はデジタル化をどうするかということです。本として見てもらう部分は当然ありますが、もっと詳しく見てもらうこと、例えばお祭りは文字や写真でも示すことができますが、実際にはどういう動きのものなのか、どう見せていったらいいかが課題です。

白鳥市長

祭りの場合、北村先生の動画も活用できると思います。

早川市誌編さん室長

上伊那 30 選などがあるので検討します。

白鳥市長

新たにつくっても大変なので、今あるコンテンツを上手に使ってもらえればと思います。

早川市誌編さん室長

例えばケーブルテレビで取材に行っていてまとめているものもあります。

10 月に諏訪形の御柱祭があり、その時にはケーブルテレビでも生中継が予定されています。一通りのものが記録としてはできるので、今後どう活用していくかということもあると思います。

白鳥市長

15 年ほど前に宇津木の薬師堂で 33 年に 1 回のお祭りがあり、記録を全部撮っておくようお願いした。そういうものも探すなどアイデアを出してほしい。

早川市誌編さん室長

現在、私どもで、どこにどういった資料があるとか、そういう映像があるとか、わかってない部分があるので、そういったところをまず探す必要があると思います。

白鳥市長

ケーブルテレビもあれば新聞社もある。生涯学習課や各地区で撮ってあるものもあると思うので、それを集めることも考えてほしい。

早川市誌編さん室長

市役所の広報の写真も本当に面白いものがあります。高遠町総合支所にも面白い写真があります。

白鳥市長

民俗的なものや、祭り、民具もある。林署や国土交通省にも資料があるので、お願いすれば、出てくると思います。

早川市誌編さん室長

先日、三峰川総合開発の事務所へ行き、工事の環境アセス等の報告書があり見せていただいたところです。今回、使わせていただきたいとお話させていただきました。

○学校登山の状況について

白鳥市長

では、続きまして、学校登山についてお願いします。

福與指導主事

資料に基づき説明

白鳥市長

学校登山は新聞報道にもありましたけど、各地区の中学校が徐々にやらない方向にあり、コロナ禍で決定的に止めていく動きがあります。

長野県の学校登山の歴史、成り立ちを考えると、やはり教育の面において非常に重要な位置を占めている中で、伊那市としては泊を伴う登山をやっていきたいと思います。

そのために先生の数などの課題は物理的な問題なので、やり方によっては十分対応できると思います。また、先生たちだけに責任を全て負わせるのではなく、やはり伊那市立の中学校として、実施する上で、ガイドを増やすとか、医療体制を充実させるなど、様々な側面的な支援を行い、実施したいと思っています。来年に向けて、準備を始めてほしいと思います。

宿泊については、例えば馬の背ヒュッテは収容 100 人ですので、コロナで 70%ぐらいとしても、50 人から 70 人くらい泊まります。仙丈小屋は今 50 人ぐらいの施設なので 30 人ぐらいは泊まります。そうやって分散していくと箔を伴った登山の可能性は十分にあるので、その時は一般登山者向け宿泊の予約をやめるなど、学校を優先してその子どもたちだけが泊まれるようにしていくこともありだと思えます。そのそうしたことも頭に入れて、実施してもらえればと思います。

また、体の具合が悪くて無理だという子どもたちがロープウェイだったら行けるというのも一つの形であり、こういう体験をしてもらうことも大事だと思います。この学校はここに行きますという固定概念を一旦止めて、柔軟に実施いただければと思います。

笠原教育長

ありがとうございます。市内の中学校長と面談等を定期的に行う中で、登山については中学校長の 6 人とも非常に前向きに考えようという姿勢で臨んでくれていいです。今のお話をいただきながら、また次年度以降の計画ができるように情報共有してまいります。本当にありがとうございます。

(4) その他

白鳥市長

全体を通じて何かございましたらいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

5 閉会

長時間ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、今年度第 2 回目の伊那市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。